

ライマンアルファ輝線で探る宇宙の銀河・構造形成史の理論・観測的研究

小林正和(国立天文台 光赤外研究部)

利用カテゴリ 汎用PC;

平成 22 年度は、高赤方偏移銀河、特にライマンアルファ (Ly α) エミッター (LAE) の起源解明や LAE 理論モデルの
拡張を研究テーマとして進めてきた。また、共同研究者らと共に、Ia 型超新星爆発の遅延時間評価、宇宙の星形成史にお
けるダスト補正の不定性評価などの研究も進めてきた。

現在共同研究者らとの議論を深め、査読付論文に本年度中に投稿する予定である。